

消化管悪性リンパ腫の診断と治療

司会 長崎大学医学部消化器内科 水田 陽平
 広島赤十字・原爆病院 第6内科 田利 晶

消化管原発悪性リンパ腫は、MALTリンパ腫とDiffuse large B-cell lymphomaの頻度が高く、近年その内視鏡的肉眼型および好発部位が広く認識されるとともに濾胞性リンパ腫の報告が増加している。更にカプセル内視鏡やダブルバルーン内視鏡検査の開発により消化管悪性リンパ腫の病変が小腸にも広く分布することが明らかとなっている。リンパ腫の各 subtype に特徴的な遺伝子異常も明らかになってきており、本ワークショップでは消化管原発悪性リンパ腫の診断や治療に関する最新の知見を提示いただきその治療戦略の新たな構築に迫りたい。多くの演題の応募を期待する。